

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年6月28日
【事業年度】	第23期(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
【会社名】	首都圏新都市鉄道株式会社
【英訳名】	Metropolitan Intercity Railway Company
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 石 井 幸 男
【本店の所在の場所】	東京都台東区台東四丁目25番7号
【電話番号】	03-3839-7311
【事務連絡者氏名】	経理部次長 平 山 隆 祥
【最寄りの連絡場所】	東京都台東区台東四丁目25番7号
【電話番号】	03-3839-7311
【事務連絡者氏名】	経理部次長 平 山 隆 祥
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第19期	第20期	第21期	第22期	第23期
決算年月	平成21年 3 月	平成22年 3 月	平成23年 3 月	平成24年 3 月	平成25年 3 月
営業収益 (千円)	33,377,106	34,248,439	35,398,368	36,074,775	37,901,279
経常利益又は経常損失 (千円) (△)	△1,363,100	30,472	2,629,284	2,183,358	2,976,191
当期純利益又は当期純損失(△) (千円)	△1,890,601	14,912	2,141,268	2,529,972	3,093,262
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	—	—	—	—	—
資本金 (千円)	185,016,300	185,016,300	185,016,300	185,016,300	185,016,300
発行済株式総数 (株)	3,700,326	3,700,326	3,700,326	3,700,326	3,700,326
純資産額 (千円)	160,611,872	160,626,784	162,768,053	165,298,025	168,391,288
総資産額 (千円)	1,224,366,382	1,218,127,480	1,202,365,209	1,178,364,080	1,154,713,491
1株当たり純資産額 (円)	43,404.78	43,408.81	43,987.49	44,671.20	45,507.14
1株当たり配当額 (円) (内1株当たり 中間配当額) (円)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)
1株当たり当期純利益金額又は当期純損失金額 (円) (△)	△510.92	4.02	578.67	683.71	835.94
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	13.1	13.1	13.5	14.0	14.5
自己資本利益率 (%)	—	0.0	1.3	1.5	1.8
株価収益率 (倍)	—	—	—	—	—
配当性向 (%)	—	—	—	—	—
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	20,209,729	20,697,074	22,609,132	21,229,057	23,414,672
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	△15,941,239	△16,065,833	△3,547,664	5,646,815	3,927,492
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	△4,433,849	△5,563,904	△18,250,476	△26,376,205	△27,982,057
現金及び現金同等物の 期末残高 (千円)	4,486,942	3,554,278	4,365,270	4,864,937	4,225,045
従業員数(外、平均臨時雇 用者数) (名)	619 (17)	648 (16)	660 (16)	650 (14)	649 (14)

- (注) 1 営業収益には消費税等は含まれていません。
2 株価収益率は、当社の株式が証券取引所非上場であり、株価の算定が困難なため記載していません。
3 当社は、連結財務諸表を作成していませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載していません。
4 当社は関連会社がないため、持分法を適用した場合の投資利益又は投資損失の金額は記載していません。
5 第19期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失が計上されており、また、潜在株式が存在しないため記載していません。第20期、第21期、第22期、第23期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。
6 従業員数は、就業人員を表示しています。

2 【沿革】

昭和60年7月の運輸政策審議会において、21世紀における東京圏の姿を展望した「東京圏における高速鉄道を中心とする交通網の整備に関する基本計画」の答申がなされ、その中で東京から筑波研究学園都市までの常磐新線(つくばエクスプレス)の整備は、都市交通対策上喫緊の課題であり、建設・運営段階における関係者の全面的な支援のもとに具体化を図るべきものとされました。

一方で、首都圏における住宅不足解消の方策として、平成元年9月に、大量の宅地供給と新たな鉄道の整備を推進する目的で「大都市地域における宅地開発及び鉄道整備の一体的推進に関する特別措置法」が施行されました。

ここに東京都の秋葉原から茨城県のつくば市まで延長58.3kmを結ぶ都市高速鉄道の整備事業が促進されることになり、第三セクターを事業主体として建設・運営すべく、平成3年3月15日に沿線の1都3県12市区町村の出資により、「首都圏新都市鉄道株式会社」(本社事務所：東京都港区六本木四丁目2番14号)が設立されました。

その後の経緯は、以下のとおりです。

平成3年10月 東京都、埼玉県、千葉県、茨城県の、「大都市地域における宅地開発及び鉄道整備の一体的推進に関する特別措置法」に基づく基本計画が、運輸大臣、建設大臣及び自治大臣より承認される。

平成4年1月 運輸大臣より「第一種鉄道事業」の免許を取得

平成5年1月 秋葉原・新浅草間につき、第一次分割工事施行認可を取得(以後、順次取得)

平成6年10月 起工式を挙行

平成7年1月 東京都台東区浅草橋五丁目20番8号に本社事務所を移転

平成12年1月 東京都台東区元浅草二丁目6番6号に本社事務所を移転

平成12年7月 秋葉原・つくば間の全線につき、工事施行認可取得(完了)

平成13年2月 鉄道路線名称を「つくばエクスプレス」に決定

平成16年12月 東京都台東区台東四丁目25番7号に本社事務所を移転

平成17年2月 旅客運賃設定認可申請(平成17年4月認可)

平成17年8月 開業

3 【事業の内容】

当社は平成17年8月24日に開業したつくばエクスプレスを第一種鉄道事業者として運営する旅客運送業者で
す。

つくばエクスプレスは秋葉原～つくば間(58.3km)を最速45分で結ぶ都市高速鉄道で、利用者及び沿線地域に以下のような効果を生み出すことを期待されています。

- ① 東京圏北東地域の交通体系の充実

東京圏北東方面は東京都心からの放射方向の鉄道網の密度が極めて低い地域となっていました。開業により、都心までの時間距離が大幅に短縮されました。

- ## ② 沿線地域における住宅・宅地の供給

沿線地域は多くの開発計画地を抱えており、沿線開発と鉄道整備を一体的・計画的に整備することにより、良質の住宅・宅地の供給が可能となります。

- ### ③ 首都圏の地域構造改編

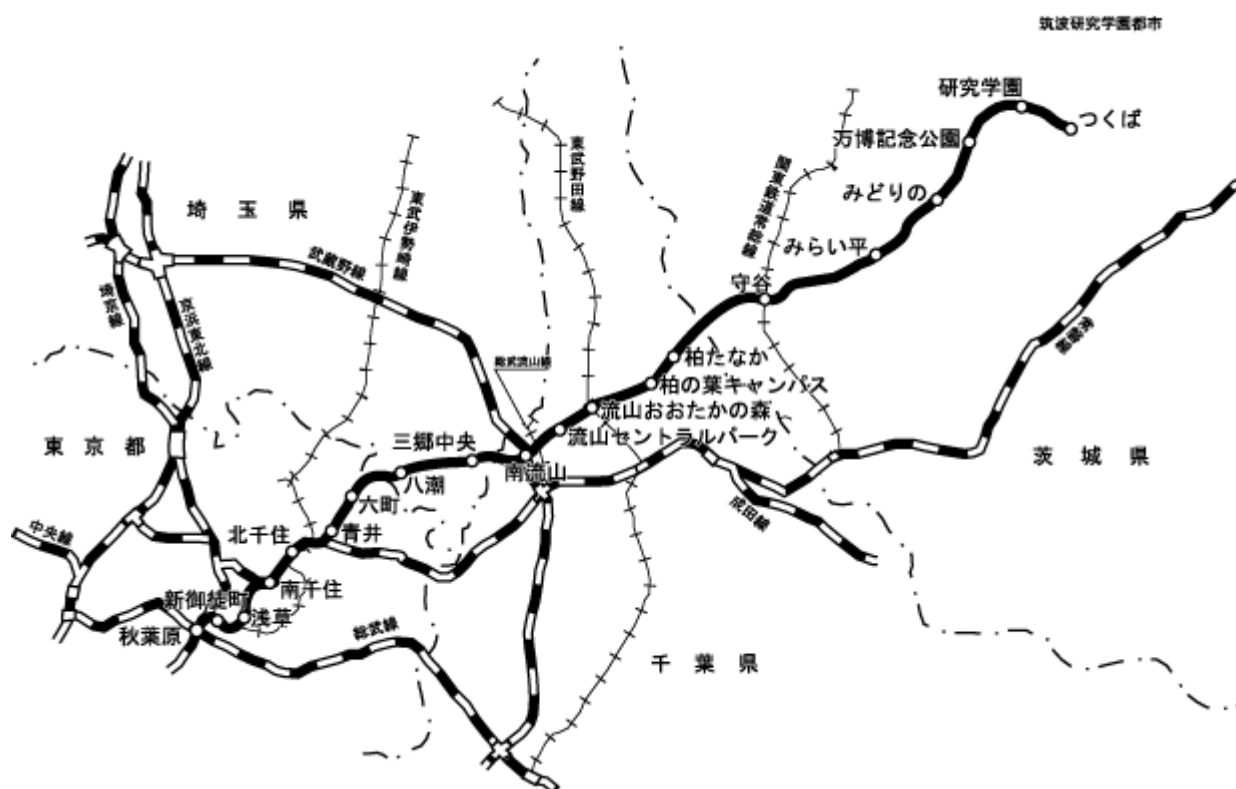
IT拠点として発展する秋葉原と研究開発拠点のつくばが結びつくことにより、筑波研究学園都市の一層発展を可能とするとともに、沿線の八潮市、三郷市、流山市、柏市等においても生活利便性の向上、人、物、情報等の流れの活発化による業務機能や研究開発機能の移転、整備が図られ、首都圏一極集中の是正に寄与します。

- #### ④ 沿線地域の活性化

開業により、沿線の計画開発地の開発及び既成市街地の活性化が促進され、地域産業や商業が活性化し、大きな経済波及効果を生み出します。

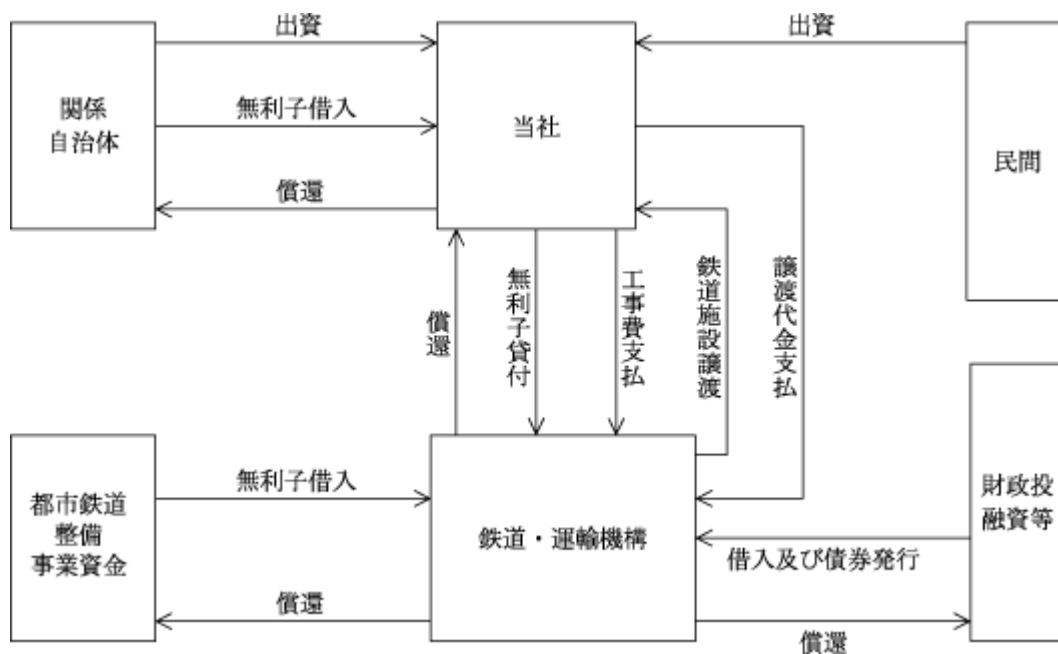
なお、つくばエクスプレスの鉄道施設については、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構(以下「鉄道・運輸機構」という。)工事として建設を進めてきましたが、開業に当たり、主要な鉄道施設の譲渡(平成17年8月23日)を受けました。また、平成20年3月31日に復旧工事を含む残工事分について譲渡(二次譲渡)を受けました。これにより、つくばエクスプレス建設工事は完了となりました。

つくばエクスプレス路線図



つくばエクスプレス建設事業にかかる資金等の流れ及び調達方法は、国及び関係自治体の合意により、以下のとおりとなっています。

(つくばエクスプレス建設事業にかかる資金等の流れ)



(注) 鉄道施設は、工事完成後において鉄道・運輸機構から譲渡を受け、増資資金により賄われた工事費を除く譲渡代金は長期延払によって支払うこととしています。

(つくばエクスプレス建設事業にかかる資金調達方法)

建設事業費 8,081億円 (注1)			
無利子借入金		増資	財政投融资等
都市鉄道整備事業資金からの借入 (注2) (40%相当額)	関係自治体からの借入 (注2) (40%相当額)	関係自治体からの増資 (注3)(注5) (14%相当額)	財政投融资からの借入及び機構債の発行等 (注4)(注5) (6%相当額)
鉄道・運輸機構が直接調達	当社が借入により調達し、鉄道・運輸機構に支払	当社が増資により調達し、鉄道・運輸機構に支払	鉄道・運輸機構が直接、国から財政投融资資金の借入、機構債の発行により調達

(注1) 建設事業費は1兆473億円(うち、都市鉄道整備事業資金無利子貸付対象事業費1兆283億円)でしたが、コスト縮減の取り組み等により、8,081億円となりました。

(注2) 各年度毎に建設事業の進捗に応じ、所定の割合(40%)を調達しました。

(注3) 原則として、各年度毎に建設事業の進捗に応じ、所定の割合(14%)を調達しましたが、平成9年度以降の建設事業費見合い分については、平成9年度から平成11年度の3ヶ年度に前倒しし、概ね均等に調達しました。

この資金は、各年度毎に所定の割合(14%)を建設費に充当するほか、平成9年度以降平成14年度までは当該年度の財政投融资等の6%相当分にも充当し、有利子資金導入の遅延に資することとしました。

(注4) 財政投融资等については、平成8年度までは鉄道・運輸機構において調達されてきましたが、平成9年度から平成14年度までは、(注3)のとおり当社が関係自治体から前倒し増資により調達した資金を毎年度鉄道・運輸機構に支払いをしました。

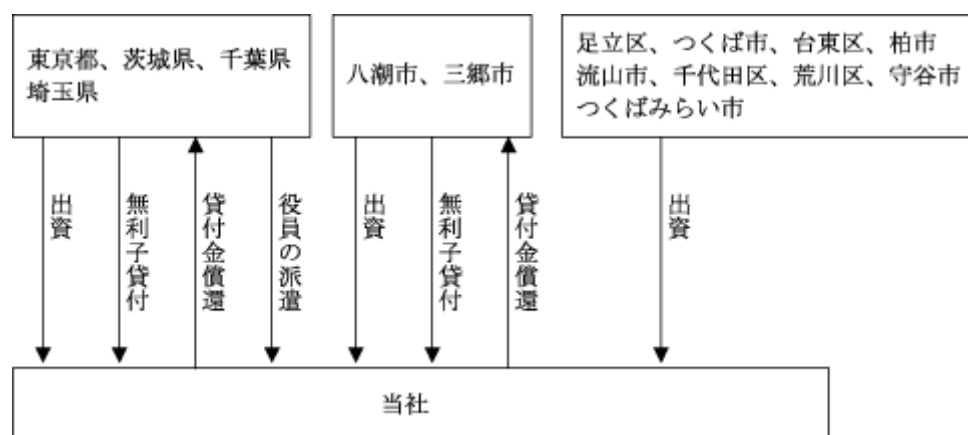
(注5) 増資及び財政投融资等が所定の割合(各々14%、6%)となるよう、平成15年度から平成17年度にかけて増資による鉄道・運輸機構への支払を調整しました。

(注6) 本表には財政投融资資金、鉄道・運輸機構債の利子を含んでいませんが、鉄道・運輸機構の鉄道施設譲渡代金に算入され、当社の負担となります。

4 【関係会社の状況】

当社には企業集団となる関係会社は存在していませんが、つくばエクスプレスの建設に要する事業費のうち40%相当額については、大株主である東京都、茨城県、千葉県、埼玉県及び八潮市並びに三郷市からの無利子貸付金により賄われるほか、つくばエクスプレスの建設に要する事業費のうち14%相当額については、前記の団体を含めた足立区、つくば市、台東区、柏市、流山市、千代田区、荒川区及び守谷市並びにつくばみらい市の合計15団体からの出資金により賄われることになっています。また、役員として、東京都、茨城県、千葉県、埼玉県の副知事等各1名が非常勤取締役、茨城県、千葉県の会計管理者各1名が非常勤監査役に就任することになっており、沿線の自治体とは密接な関係を有しています。

その概要は次のとおりです。



5 【従業員の状況】

(1) 提出会社の状況

平成25年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
649 (14)	35.8	6.3	5,639

- (注) 1 従業員数は就業人員です。なお、従業員のうち44名は、鉄道会社、自治体等からの出向者です。
2 当社は単一セグメントとなっています。なお、記載の従業員数は全て鉄道事業従業者です。
3 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員(派遣等)の年間平均雇用人員です。
4 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでいます。

(2) 労働組合の状況

労働組合はありません。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当期のわが国の経済は、期初は東日本大震災の復興需要等を背景として、緩やかに回復しつつありましたが、期中は世界景気の減速等を背景として、弱い動きとなり、ようやく年明け以降に下げ止まり、期末にかけて持ち直しの動きが見られる状況で推移しました。先行きについては輸出環境の改善や経済対策、金融政策の効果などを背景にマインドの改善にも支えられ、次第に景気回復へ向かうことが期待される一方で、海外景気の下振れが、引き続きわが国の景気を下押しするリスクとなっています。

このような先行き不透明な経営環境の中、当社は「安全、安定、安心輸送のTX」を常に心がけ、堅実な経営に努めてきました。

この結果、お客様のご利用状況につきましては、東日本大震災後の輸送需要落込みからの回復に加え、沿線の開発が堅調に進展したこと等により、当期の輸送人員は110,659千人〔前期比5.5%増、内訳は、定期72,288千人（前期比4.5%増）、定期外38,371千人（前期比7.4%増）〕となりました。一日当たりの輸送人員で見ると約306千人となり、前期の実績である一日当たり約290千人から約16千人増加となっています。

こうした主として輸送人員の増加を反映し、当期の鉄道事業営業収益は37,901百万円（前期比5.1%増）となりました。内訳は、定期運賃は18,458百万円（前期比3.7%増）、定期外運賃は18,077百万円（前期比6.7%増）となり、また、運輸雑収は1,365百万円（前期比2.1%増）となっています。

一方、営業費は、経費節減努力を行い効率的運営に努めましたが、電力単価の上昇による動力・水道光熱費の増加や経年による修繕費の増加等により34,164百万円（前期比2.4%増）となりました。このため鉄道事業営業利益は3,736百万円（前期比38.6%増）となりました。

営業外収益は金利情勢の変動を受けて667百万円（前期比26.1%減）、営業外費用は1,427百万円（前期比0.9%増）となりました。

この結果、経常利益は2,976百万円（前期比36.3%増）となり、4期連続で経常利益を計上することができました。

税引前当期純利益は2,976百万円（前期比62.6%増）となり、これから法人税、住民税及び事業税227百万円を差引きし、また、法人税等調整額344百万円を計上した結果、当期純利益は3,093百万円（前期比22.3%増）となりました。

		単位	前事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当事業年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)	前年同期比(%)
営業日数		日	366	365	99.7
営業キロ		km	58.3	58.3	100.0
客車走行キロ		千km	41,952	43,360	103.4
輸送人員	定期	千人	69,167	72,288	104.5
	定期外	千人	35,722	38,371	107.4
	合計	千人	104,889	110,659	105.5
旅客運輸収入	定期	千円	17,797,859	18,458,750	103.7
	定期外	千円	16,939,201	18,077,153	106.7
	合計	千円	34,737,061	36,535,903	105.2
運輸雑収		千円	1,337,714	1,365,375	102.1
運輸収入合計		千円	36,074,775	37,901,279	105.1
乗車効率		%	38.9	39.3	101.8

(注) 1 乗車効率の算出方法

$$\text{乗車効率} = \frac{\text{輸送人員} \times \text{平均乗車キロ}}{\text{客車走行キロ} \times \text{平均定員}} \times 100$$

2 上記金額には、消費税等は含まれていません。

(2) キャッシュ・フローの状況

当事業年度における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は4,225,045千円となり、前事業年度に比べて639,891千円減少しました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当事業年度の営業活動による資金の増加は23,414,672千円となり、前事業年度に比べて2,185,615千円増加しました。

これは主として、税引前当期純利益が2,976,191千円と前事業年度に比べて1,145,899千円増加したことおよび非資金項目である減価償却費が19,869,480千円と前事業年度に比べて134,828千円増加したことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当事業年度の投資活動による資金の増加は3,927,492千円となり、前事業年度に比べて1,719,322千円減少しました。

これは主として、鉄道・運輸機構との間に締結した「事業費の貸付等に関する協定」に基づく鉄道・運輸機構からの貸付金回収による収入が8,232,050千円と対前事業年度に比べて2,610,100千円増加しましたが、一方で、有形固定資産による支出が4,835,417千円と対前事業年度に比べて3,391,570千円増加し、有価証券および投資有価証券の償還による収入が57,940,000千円と対前事業年度に比べて888,650千円減少したことによります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当事業年度の財務活動による資金の減少は27,982,057千円となり、前事業年度に比べて1,605,851千円増加しました。

これは主として、鉄道・運輸機構との間に締結した「常磐新線の建設及び譲渡・引渡し基本協定書」に基づく長期未払金および割賦購入車両の長期未払金返済の支出が19,765,290千円と対前事業年度に比べて998,526千円減少しましたが、一方で、「常磐新線建設資金貸付要綱」に基づく長期借入金返済の支出が8,214,050千円と対前事業年度に比べて2,604,100千円増加したことによるものです。

2 【生産、受注及び販売の状況】

当社の事業内容は、役務の提供を主たる事業としており、生産、受注及び販売の状況について、金額あるいは数量で示すことはしていません。そのため、「生産、受注及び販売の状況」は、「1 業績等の概要」の項において記載しています。

3 【対処すべき課題】

平成25年度につきましても安全・安定・安心輸送の確保こそがお客様に対する最大のサービスであり、会社経営の根本であることを社内に徹底するとともに、以下の三本柱を重点施策として経営を進めてまいります。

3-1. 「安全・安定・安心輸送」の徹底

(1) 輸送施設・設備の改良

①入出庫線複線化工事の推進

守谷駅と車両基地を結ぶ入出庫線は単線であるため、車両故障等のトラブルが発生した場合、車両基地からの入出庫ができなくなり、本線の輸送障害につながるおそれがあります。このようリスクを低減し、安定輸送を確保するため、平成24年度に準備工事等を開始した入出庫線の複線化工事に本格的に着手、28年度末の完成を目途に推進してまいります。

②イオン放散式防雷システムの設置

雷の被害から列車運行に関係する重要設備を守るため、平成19年度から順次「防雷システム」を設置して参りました。平成25年度には6箇所目となるみどりの変電所への設置を予定しております。

③安全関係設備の更新

当社は開業からまもなく8年目を迎えることとなりますが、安全輸送を確保していくため、車両のATC（自動列車制御装置）およびATO（自動列車運転装置）をはじめとする設備の更新を進めてまいります。

(2) 自然災害対策

①新たな地震防災システムの構築

つくばエクスプレス沿線近傍の地震に対して、これまでよりも数秒早く列車停止の警報を発することが可能となる新たな地震防災システムの構築を進めてまいります。

このシステムは、沿線にP波の地震計を増設し、沿線近傍の地震の場合、気象庁の早期地震警報システムよりも早くP波を検知し、列車無線システムに緊急放送を発信することにより、列車を停止させるものです。沿線より離れた地震の場合は、従来通り気象庁の早期地震警報システムの情報を取り込み早期に列車を停止させます。平成25年度中の運用開始を目指し、システムの構築を進めてまいります。

②帰宅困難者対策

東日本大震災の対応を教訓とし、各駅務管理所単位で公設一時避難場所への誘導や自治体・他の鉄道会社との連絡体制等について関係自治体等と協議してまいりました。引き続き関係自治体等と連携を進め、帰宅困難者にかかる必要な対策を講じてまいります。

(3) 社員の安全教育・訓練の拡充

安全の確保に当たって、設備の充実に加えて社員の安全意識の高揚や技能の維持は大きな課題です。

このため、社員教育については、毎年度計画を定め、本社各部・現業で基礎教育や専門教育等を継続して実施しております。また、毎年、若手社員を中心に、全国各地の鉄道会社の調査を行っており、各社の伝統の中で培われた安全対策について学んでおります。

また、守谷の総合基地においては、地元警察、消防等と連携した「異常時総合訓練」を、各駅・管理所においては関係機関等と合同で「人身事故処置訓練」や「合同消防訓練」等を実施しており、こうした取組を今後も引き続き行ってまいります。

さらに、こうした緊急時対応の訓練や社員の日常的実践研修を行うための「教育訓練センター(仮称)」の設置についても準備を進めてまいります。

3-2. お客様のご要望を先取りしたサービスの提供

つくばエクスプレスは開業以来、その最新鋭の輸送施設・設備を最大限に活かし、高速性、定時性、快適性に優れた、高質な輸送サービスを提供して参りました。今後もこうしたつくばエクスプレスならではの輸送サー

ビスにさらに磨きをかけるとともに、お客様のご要望を先取りして、お客様に愛され親しまれやすいサービスの提供を図ってまいります。

(1) 輸送サービスの向上

①運行ダイヤの充実

鉄道事業の最大の商品は利便性の高いダイヤですが、車両3編成の増備や秋葉原駅改良工事、南流山駅ホーム延伸工事の完了に伴い、設備面での輸送力増強対策が整ったことから、平成24年10月に「通勤快速」を新設する等の抜本的なダイヤ改正を実施しました。今後ともお客様の利用実態を注視しつつ、利便性の向上等が図られるよう検討してまいります。

②守谷駅追越設備工事

現在、流山おおたかの森駅からつくば駅の間には追越設備が無く、今後のダイヤの充実に当たっての制約となっています。このため、平成28年度末完了を目途に守谷駅への追越設備の整備に着手し、将来的な、守谷以遠の各駅から秋葉原方面への到達時間の短縮、守谷以遠における列車の運転間隔の均等化を目指してまいります。

(2) お客様本位のサービス提供

①お客様の視点に立った企画切符の発売

「筑波山きっぷ」や「TX東京メトロパス」、「TOKYO探索きっぷ」など、お客様のご利用の目的に応じて利便が図られるよう、各種の企画切符を発売しており、これらにつきましては、お客様に定着しつつあります。

平成24年5月に東京スカイツリーが開業したことに伴い、新たに「TX&東京スカイツリー周辺散策フリーきっぷ」を発売いたしました。今後もお客様に定着するように利用促進対策を図ってまいります。

②駅施設の利便性向上

平成24年度において、秋葉原駅にランチパック専門店が出店、八潮駅にはスーパーが出店しました。

平成25年度はTXグランドアベニューおおたかの森においてリニューアルを実施する予定です。また、各駅構内における売店の出店拡充を図る等、駅ご利用のお客様にご満足いただけますよう、利用しやすいサービスの提供を図ってまいります。

③使いやすい駅施設の実現

ユニバーサルデザインの考え方を取り入れ、使いやすい、移動しやすい、わかりやすい、どなたにもやさしい施設・車両を目指しています。平成25年度は、車椅子や高齢者、妊婦、お子様連れのお客様など、どなたでも利用しやすいトイレへのリニューアルを順次実施してまいります。

④交通系ICカードの全国相互利用サービス

平成25年3月より、「PASMO（株式会社パスモ）」を始め、全国の交通系ICカードが相互に利用できるシステムが導入されました。つくばエクスプレス沿線には、大学、研究施設、会議場が多く立地しており、他地域からつくばエクスプレスを利用されるお客様への利便性向上や電子マネーの利用促進に向けて、関係各社・団体との相互利用にかかる連携を強化してまいります。

3-3. 沿線地域と共存共栄を図って着実な前進を

当社は、沿線自治体や街づくり団体等と協同して、沿線地域との共存共栄を理念として様々なイベントや広報活動に取り組んで参ります。また、環境問題への取組は企業の存在と活動に必須の要件であると認識し、環境に配慮した事業運営を図ってまいります。

(1) 沿線地域の活性化に向けた取組

①沿線観光資源のPR

当社は、沿線の様々な観光資源について、自治体、地元観光協会等との連携の下、多様なPR活動を積

極的に展開し、地域の観光の振興に寄与してまいります。

筑波山は沿線の貴重な観光資源であり、四季を通じて筑波山の魅力を発信しております。特に、お客様の少ない冬場には、「スターダストつくば」や「ほっかほかキャンペーン」、「真壁の雛祭り」においても積極的なPR活動を展開してまいります。

東京スカイツリーの開業を機に下町エリアに注目し、「TX下町スタンプラリー」の実施や「魅惑の下町めぐりフォトガイド」を作成し、沿線の下町のPRに力を入れてまいります。

②地域活性化のためのイベント等の実施

当社は、沿線地域の活性化に向けて、「TXサイクルフェスタ」や「TXつくばウォーキング」等のイベントを、地元県・市・大学の協力を得て行っています。

また、開業記念日である8月24日に合わせて毎年実施している「こども美術館列車」は、沿線住民の皆様から好評を得ています。秋に基地を開放して行われる「TXまつり」は、当社最大のイベントとして、お子様をはじめご来場の皆様との触れ合いの場となっております。今後とも趣向を凝らし、皆様に喜ばれるイベントを企画してまいります。

③自治体等との連携

つくばエクスプレスの沿線では、新たな街づくりが進められており、当社としてもこうした取組に積極的に寄与してまいります。このため、各地域の街づくり推進組織や自治体との協議に参加し、新しい街づくりに積極的に参画してまいります。

地域で行われている様々なイベントなどに対し、駅や列車を用いたPR、グッズ販売などによるイベントへの参加、高架下など当社保有施設の提供による協力などを進めてまいります。

沿線の開発促進と沿線自治体や事業者間の連携強化を目的として「TX沿線サミット」が開催されております。当社と致しましてもシンポジウム等の場を通じて、積極的に交流を図ってまいります。

柏たなか駅の高架下の「環境コンビニステーション」では、柏市や(独)都市再生機構等が推進する農あるまちづくり活動の拠点として、レンタサイクルや地元農家の農作物の直売等も実施され、地域内外の交流の場として寄与しております。

(2) 環境に配慮した取組

①環境にやさしい鉄道等の利用促進

鉄道は環境にやさしい公共交通機関ですが、つくばエクスプレスの沿線は、これまで鉄道の空白地帯であり、自動車利用の多い地域でした。このため、更なる鉄道利用のPRを進めるとともに、駐輪場の整備やパーク＆ライドの促進、八潮パーキングエリアを活用したレール&高速バスライドの促進等を図り、環境にやさしい鉄道等の利用促進を行ってまいります。

②回生エネルギーの有効利用

「電力回生ブレーキ」を採用し、電車がブレーキをかけた際にモーターを発電機として電力を発生させ、架線に戻しています。この架線に戻した電力は、他社と同様、走行中の他の電車で利用するほか、当社独自の取組として、交流に変換した上で駅の電気設備での利用も行っています。

平成25年度は、こうした取組をさらに一步進め、余った電力を東京電力へ売電することを検討してまいります。

③環境モデル駅（流山おおたかの森駅）

当社では、流山おおたかの森駅を環境モデル駅（TXエコ・ステーション）として、環境に配慮した取組を進めています。平成24年11月には、沿線地域の方々との環境コミュニケーションの場としてご利用いただくことを目的に、同駅に「エコPRコーナー」を開設しました。

平成25年度は、ホームの照明のLED化を行うなど、今後も同駅を拠点に環境にやさしい鉄道に向けた取組を進めてまいります。

以上の様な取組を通じ、お客様の目線を大切にしながら常に意識するとともに、これまで以上に「安全、安定、安心輸送のTX」として皆様方の信頼とご期待に応えるべく、全社一丸となってまい進してまいります。

4 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、当社の経営成績、財政状況等に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。なお、将来に関する事項は、当事業年度末(平成25年3月31日)現在において、当社が判断したものです。

- (1) 当社の収益の大半を占める旅客運輸収入は、旅客利用客の確保や運賃改定の動向に依存します。鉄道利用客について、他社路線の鉄道利用客からの振替需要の動向、沿線の開発による開発人口の増加状況等によって、また、運賃についても、競合他社及び物価動向の状況によって、旅客運輸収入が計画を下回り、そのことが会社の資金繰りに影響を及ぼす可能性があります。

なお、当社の平成24年度実績は営業収益379億円、経常利益29億円、当期純利益30億円でした。

また、営業活動によるキャッシュ・フローは開業以来、17年度43億円、18年度498億円(うち、327億円は消費税等還付金)、19年度186億円、20年度202億円、21年度206億円、22年度226億円、23年度212億円、24年度234億円と、いずれも黒字基調を維持しており、今後も黒字が継続すると見込まれ、一方、鉄道施設に係る割賦契約の返済条件は、元利均等方式による期間5年据置、35年償還であり、平成25年度の機構未払金返済額は202億円であることから、当面の当社の資金繰りは特に問題ないものと考えます。

- (2) 当社は関東地方南部の秋葉原～つくば間を結ぶ鉄道施設を所有していますが、当該エリアに大きな被害をもたらす地震等の自然災害が発生した場合、当社の経営成績及び財政状態に多くの影響を及ぼす可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

(1) つくばエクスプレスの建設及び譲渡・引渡し基本協定等

つくばエクスプレスの建設及び譲渡・引渡し並びに工事の施行、事業費の負担等について次のように鉄道・運輸機構との間で協定を締結しています(なお、これらの協定は工事施行認可等のつど変更、累積されますので直近の内容を記載しています。)

協定締結日	建設及び譲渡・引渡し基本協定書	建設に係る事業費の負担等に関する協定書	建設及び譲渡・引渡し基本協定書の第5条第2項の規定に基づく事業費の貸付等に関する協定書
平成5年2月23日 平成6年2月2日 平成7年3月10日 平成7年9月27日 平成8年3月28日 平成9年5月20日 平成9年6月30日 平成9年10月29日 平成10年12月22日 平成11年4月9日 平成12年4月27日 平成12年8月4日 平成15年5月15日 平成15年12月4日	1 工事の区間 秋葉原・つくば間 2 工事の設計 3 工事の施行 東京支社に行わせる 4 完成予定期日 平成20年3月31日 5 事業費 都市鉄道整備事業資金からの無利子借入金、別に調達する資金 (鉄道・運輸機構が調達) 当社からの無利子貸付金、当社の負担金 (詳細は別途協議) 6 施設の譲渡・引渡し 鉄道・運輸機構は当社に有償で譲渡・引渡しする(詳細は別途協議) 7 無利子借入金の繰上償還 (事前に協議する) 8 その他	1 事業費の負担概算額 1,052,574百万円 機構負担 884,305百万円 当社負担 168,269百万円 (負担金5,312百万円を含む) 2 事業費の精算 事業完了後 3 年度事業費の負担等 別途協定 4 経理の明確化 5 事業費の目的外使用の禁止 6 その他	1 貸付額 当社からの無利子貸付金は、鉄道・運輸機構が調達する都市鉄道整備事業資金からの無利子借入金と同額(事業費の40%相当額)とする。 2 貸付条件等 無利子、無担保 貸付日から8年又は12年据え置き後10年間半年賦均等償還 3 その他

(注) 1 建設事業費は、1兆473億円(うち、都市鉄道整備事業資金無利子貸付対象事業費は1兆283億円)でしたが、コスト縮減の取り組み等により、8,081億円(いずれの計数も、負担金53億円を除く。)となりました。

2 一部工事工程の関係から、完成予定期日は平成15年12月4日付で「平成17年3月31日」を「平成20年3月31日」に協定変更しています。

(2) つくばエクスプレス(常磐新線)の建設事業費に充当するための借入及び貸付

鉄道・運輸機構との間に締結した「常磐新線の建設及び譲渡・引渡し基本協定書の第5条第2項の規定に基づく事業費の貸付等に関する協定書」に基づき、つくばエクスプレス(常磐新線)の建設事業費に充当するため貸付を行っています。

下表のように、沿線の1都3県2市から同自治体の定めた「常磐新線建設資金貸付要綱」及び同自治体間「覚書」に基づき長期借入を行い、同額を同機構に貸付けています。

長期借入金			長期貸付金		
相手方	金額(千円)	借入条件	相手方	金額(千円)	貸付条件
東京都 茨城県 千葉県 埼玉県 八潮市 三郷市	119,527,384 89,645,538 59,763,692 19,920,971 5,478,455 4,482,420	無利子 借入日から 8年又は12年据 え置き後 元金均等半年賦 10年償還	鉄道・運輸機構	298,818,460	無利子 貸付日から 8年又は12年据 え置き後 元金均等半年賦 10年償還
計	298,818,460		計	298,818,460	

- (注) 1 借入及び貸付とも、平成5年3月以降毎年度6月(平成6年度は、7月、平成9年度は6月及び7月)・12月(平成17年度は12月及び1月)・3月の3回ずつ実行しています。なお、平成18年度は、6月、12月の2回実行し、平成19年度は3月の1回実行しています。
- 2 長期借入金及び長期貸付金には、1年以内返済予定として短期借入金及び短期貸付金に振り替えた金額を含めて表示しています。
- 3 平成6年12月以降借入・貸付した資金の据置期間は12年、それまでに借入・貸付したものは8年となっています。

(3) 常磐新線の建設及び譲渡・引渡し基本協定に基づく譲渡若しくは引渡し条件等協定書

鉄道・運輸機構と当社は、平成5年2月23日に締結した「常磐新線の建設及び譲渡・引渡し基本協定書」第6条の規定に基づき、鉄道施設の譲渡若しくは引渡しの条件等に関し、平成17年7月6日に協定を締結しています。主な内容は次のとおりです。

- 1 譲渡 鉄道・運輸機構は、工事しゅん功後当社との間で鉄道施設譲渡契約を締結し、当該鉄道施設を譲渡する。
- 2 譲渡価額 鉄道施設の譲渡価額は鉄道・運輸機構が国土交通大臣から認可を受けた額とする。
- 3 抵当権の設定 当社は、本協定に基づき負担することとなる債務の担保として、鉄道・運輸機構との間で抵当権設定契約を締結し、鉄道・運輸機構から譲渡を受けた鉄道施設で組成する鉄道財団のうえに、鉄道・運輸機構を第一順位とする抵当権を設定する。
- 4 譲渡の対価等 当社は、以下①及び②の合計額を鉄道・運輸機構に支払う。
 - ① 譲渡価額を元本とする元利均等半年賦支払の方法による元利支払額(期間5年据置35年償還及び利率は国土交通大臣の指定したところによる。)
 - ② 当社鉄道施設に係る債券に係る債券発行費、債券発行差金及び管理費
- 5 費用の額等 譲渡日の翌日から5年後の譲渡日までの間、当社は未償還元本に係る支払利子と未償還元本に係る債券の債券発行費、債券発行差金及び管理費の合計金額を支払う。
- 6 対価等の支払 毎年度上期については9月14日、下期については3月14日とする。

(4) 鉄道施設譲渡契約（一次譲渡）

鉄道・運輸機構と当社は、平成17年7月6日締結した「常磐新線の建設及び譲渡・引渡し基本協定に基づく譲渡若しくは引渡し条件等協定書」に基づき、同機構の事業費負担とした常磐新線秋葉原起点—0K080M～58K395M間の鉄道施設の譲渡契約を平成17年8月19日に締結しています。主な内容は次のとおりです。

- | | |
|--------|---------------------------|
| 1 譲渡の日 | 平成17年8月23日 |
| 2 譲渡価額 | 6,564億円(但し、消費税等283億円を除く。) |

(5) 鉄道施設譲渡契約（二次譲渡）

鉄道・運輸機構と当社は、平成17年7月6日締結した「常磐新線の建設及び譲渡・引渡し基本協定に基づく譲渡若しくは引渡し条件等協定書」に基づき、常磐新線秋葉原・つくば間の残工事に係る鉄道施設の譲渡に関し、平成20年3月31日に締結しています。主な内容は次のとおりです。

- | | |
|--------|------------------------|
| 1 譲渡の日 | 平成20年3月31日 |
| 2 譲渡価額 | 407億円(但し、消費税等12億円を除く。) |

6 【研究開発活動】

該当事項はありません。

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 財政状態について

資産合計1,154,713,491千円(前事業年度末比23,650,589千円減)、負債合計986,322,202千円(前事業年度末比26,743,851千円減)、純資産合計168,391,288千円(前事業年度末比3,093,262円増)となりました。

資産の減少は、主として、鉄道・運輸機構から譲渡された鉄道施設等の減価償却によるものであり、負債の減少は、主として、鉄道・運輸機構から譲渡された鉄道施設の未払金、及び割賦契約により購入した車両に係る未払金等が減少したことによるものです。

純資産の増加は、当事業年度の純利益によるものです。なお、固定負債の大半を占める長期未払金のうち656,707,775千円は、長期割賦により譲り受けた機構長期未払金ですが、その返済条件は、元利均等半年賦支払の方法による期間5年据置、35年償還であり、当面の財政状態は特に問題はないと考えています。

(2) 経営成績について

当事業年度における経営成績については、「1業績等の概要(1)業績」に記載のとおりです。

(3) キャッシュ・フローの状況について

当事業年度におけるキャッシュ・フローの状況については、「1業績等の概要(2)キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりです。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当期に実施した設備投資は総額6,726百万円で、車両新造3編成、秋葉原駅改良工事、南流山駅改良工事等です。

2 【主要な設備の状況】

当社の平成25年3月31日現在における設備の状況は下表のとおりです。

事業所 (所在地)	帳簿価額（単位：百万円）								従業員数 (人)
	土地 [面積(m ²)]	建物	構築物	車両	機械装置	工具・器具・備品	無形 固定資産	合計	
鉄道施設	105,619 [669,782]	32,686	496,592	20,421	22,466	415	45,208	723,411 [669,782]	649 [14]

- (注) 1 事業所（所在地）は、東京都千代田区、台東区、荒川区、足立区、埼玉県八潮市、三郷市、千葉県流山市、柏市、茨城県守谷市、つくばみらい市、つくば市の4区7市にまたがっています。
- 2 帳簿価額欄の上段は帳簿価額、下段〔 〕書きは土地の面積（m²）です。
- 3 従業員数欄の「外書」は、臨時従業員(派遣等)の年間平均雇用人員です。
- 4 鉄道・運輸機構から譲り受けた鉄道施設で組成する鉄道財団の上に、当社が負担する債務の担保として同機構を第1順位とする抵当権の設定を予定しています。
- 5 上記の他、主要な賃借設備は次のとおりです。

東日本旅客鉄道(株) 秋葉原駅部、南千住～西綾瀬、南流山駅部 土地 39,188
m²

- 6 上記のうち、主要な賃貸設備は次のとおりです。

阪急電鉄(株) 東京都千代田区神田佐久間町一丁目 土地 1,634m²

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

工事件名	投資予定額 (百万円)	資金調達方法	着手年月	完了予定年月
入出庫線複線化工事	6,729	自己資金	平成24年9月	平成29年3月
守谷駅追越設備工事	1,395	自己資金	平成24年9月	平成29年3月

(注)上記の金額に消費税は含まれていません。

(2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

第 4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	3,800,000
後配株式	48,000
計	3,848,000

② 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成25年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年6月28日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	3,656,240	3,656,240	非上場	完全議決権株式 (注)1.2.4.
後配株式	44,086	44,086	非上場	完全議決権株式 (注)1.2.3.4.
計	3,700,326	3,700,326	—	—

(注) 1. 単元株制度を採用していません。

2. 株式の譲渡制限に関する規定は、次の通りです。

本会社の株式を譲渡又は取得するときは、株主又は取得者は取締役会の承認を受けなければならない。

3. 後配株式の内容は次のとおりです。

(1) 後配株式に対しては、普通株式に対する利益配当が1株につき年5,000円未満の場合は利益配当をしない。

(2) 普通株式に対して1株につき年5,000円以上の利益配当をする場合は、後配株式1株につき5,000円を限度として利益配当をする。

(3) 後配株式は、その株式に対する利益配当開始後10営業年度を経過したときをもって後配株式1株につき普通株式1株となる。

4. 種類株主総会の決議

定款において、会社法第322条第2項に関する定めはしていません。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当する事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当する事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成16年8月21日	18,000 (注) 1、3	3,700,326	900,000	185,016,300	—	—
	13,408 (注) 2、4		670,400			

- (注) 1 (普通株式)有償第三者割当 18,000株 発行価格 50,000円 資本組入額 50,000円
2 (後配株式)有償第三者割当 13,408株 発行価格 50,000円 資本組入額 50,000円
3 割当先は、東京都、茨城県、千葉県、埼玉県、及び12市区町村です。
4 割当先は、茨城県及びつくば市です。

(6) 【所有者別状況】

普通株式

平成25年3月31日現在

平成25年3月31日現在

区分	株式の状況								単元未満 株式の状況
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数 (人)	15	17	—	179	—	—	—	211	—
所有株式数 (株)	3,266,000	35,040	—	355,200	—	—	—	3,656,240	—
所有株式数 の割合(%)	89.33	0.96	—	9.71	—	—	—	100.00	—

後配株式

平成25年3月31日現在

平成25年3月31日現在

区分	株式の状況								単元未満 株式の状況
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数 (人)	2	—	—	—	—	—	—	2	—
所有株式数 (株)	44,086	—	—	—	—	—	—	44,086	—
所有株式数 の割合(%)	100.00	—	—	—	—	—	—	100.00	—

(7) 【大株主の状況】

平成25年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
茨城県	茨城県水戸市笠原町978番6	667,906	18.05
東京都	東京都新宿区西新宿二丁目8番1号	653,200	17.65
千葉県	千葉県千葉市中央区市場町1番1号	261,280	7.06
足立区	東京都足立区中央本町一丁目17番1号	261,280	7.06
つくば市	茨城県つくば市荻間2530番地2(研究学園D32街区2画地)	247,115	6.67
埼玉県	埼玉県さいたま市浦和区高砂三丁目15番1号	217,735	5.88
台東区	東京都台東区東上野四丁目5番6号	195,960	5.30
柏市	千葉県柏市柏五丁目10番1号	195,960	5.30
流山市	千葉県流山市平和台一丁目1番地の1	195,960	5.30
千代田区	東京都千代田区九段南一丁目2番1号	97,980	2.65
荒川区	東京都荒川区荒川二丁目2番3号	97,980	2.65
八潮市	埼玉県八潮市中央一丁目2番地1	59,876	1.62
守谷市	茨城県守谷市大柏950番地の1	54,433	1.47
つくばみらい市	茨城県つくばみらい市福田195	54,432	1.47
三郷市	埼玉県三郷市花和田648番地1	48,989	1.32
計	—	3,310,086	89.45

(注) 1. 茨城県の所有株式数は、普通株式653,202株、後配株式14,704株を合計表示しています。
2. つくば市の所有株式数は、普通株式217,733株、後配株式29,382株を合計表示しています。

(8) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成25年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	—	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 3,656,240	3,656,240	完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
	後配株式 44,086	44,086	完全議決権株式であるが、利益配当が普通株式に比べ劣後する株式
単元未満株式	—	—	—
発行済株式総数	3,700,326	—	—
総株主の議決権	—	3,700,326	—

② 【自己株式等】

平成25年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 該当事項はありません。

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当する事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当する事項はありません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

該当する事項はありません。

3 【配当政策】

当社は、毎年3月31日の最終の株主名簿に記載された株主又は登録株式質権者に対し、株主総会の決議により剰余金の配当を行なうこととしていますが、繰越損失解消までは長期間を要すると見込まれますので、当面配当は行なわない方針です。

4 【株価の推移】

当社株式は金融商品取引所非上場ですので、該当事項はありません。

5 【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
代表取締役 社長	—	石 井 幸 男	昭和21年7月14日生	昭和45年4月 平成元年7月 平成4年6月 平成7年6月 平成9年6月 平成11年7月 平成13年6月 平成20年6月 平成23年6月	運輸省入省 海上保安庁総務部国際課長 運輸政策局運輸産業課長 九州運輸局長 運輸政策局観光部長 帝都高速度交通営団理事 ㈱日本旅行業協会理事長 西武鉄道㈱取締役 常務執行役員 (鉄道本部副本部長) 当社代表取締役社長(現任)	(注)3	—
代表取締役 専務	—	小 室 裕 一	昭和25年7月12日生	昭和49年4月 平成13年1月 平成14年1月 平成17年1月 平成17年8月 平成19年8月 平成23年8月 平成24年6月	自治省入省 総務省自治税務局企画課長 総務省大臣官房審議官 総務省自治大学校長 総務省自治税務局長 (財)地方自治情報センター理事長 三井生命保険㈱顧問 当社代表取締役専務(現任)	(注)3	—
代表取締役 専務	—	後 藤 紳太郎	昭和27年1月22日生	昭和49年4月 平成9年1月 平成13年1月 平成13年7月 平成15年7月 平成19年6月	建設省入省 建設省大臣官房上席監察官 国土交通省国土交通大学校計画管理部長 ㈱不動産適正取引推進機構総括主任研究員 ㈱不動産適正取引推進機構常務理事 当社代表取締役専務(現任)	(注)3	—
常務取締役	—	中 村 益 美	昭和25年7月20日生	昭和48年4月 平成13年7月 平成15年6月 平成17年7月 平成18年7月 平成20年7月 平成21年9月 平成23年6月	東京都入庁 東京都下水道局中部建設事務所長 東京都下水道局建設部長 東京都下水道局計画調整部長 東京都流域下水道本部長 東京都市局技監 ㈱東京都新都市建設公社理事 当社常務取締役(現任)	(注)3	—
常務取締役	—	椎 名 操	昭和24年11月20日生	昭和48年4月 平成18年4月 平成19年4月 平成20年4月 平成21年4月 平成22年3月 平成22年6月	茨城県入庁 茨城県保健福祉部次長 茨城県土木部次長 茨城県理事兼茨城県東京事務所長 茨城県生活環境部長 退職 当社常務取締役(現任)	(注)3	—
常務取締役	—	重 田 雅 行	昭和25年9月16日生	昭和49年4月 平成19年4月 平成20年4月 平成21年4月 平成22年4月 平成23年3月 平成23年6月	千葉県入庁 千葉県総務部参事 (兼)総務部総務課長 千葉県総務部理事 千葉県水道局長 千葉県農林水産部長 退職 当社常務取締役(現任)	(注)3	—
常務取締役	—	石 田 義 明	昭和26年7月15日生	昭和50年4月 平成19年4月 平成21年4月 平成22年4月 平成23年4月 平成25年3月 平成25年6月	埼玉県入庁 埼玉県福祉部長 埼玉県保険医療部長 埼玉県知事室長 埼玉県公営企業管理者 退職 当社常務取締役(現任)	(注)3	—

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
取締役	—	飯尾 豊	昭和28年9月10日生	昭和53年4月 平成18年7月 平成19年6月 平成20年7月 平成23年7月 平成23年9月 平成24年6月	東京都入庁 東京都港湾局離島港湾部長 東京都港湾局港湾整備部長 東京都港湾局技監 東京都都市整備局長(現任) 当社非常勤顧問 当社取締役(現任)	(注)3	—
取締役	—	榊 真一	昭和39年12月19日生	昭和63年4月 平成19年7月 平成21年4月 平成22年4月 平成24年7月 平成24年9月 平成25年6月	建設省入省 国土交通省大臣官房会計課企画官 茨城県企画部次長 茨城県企画部長 茨城県副知事(現任) 当社非常勤顧問 当社取締役(現任)	(注)3	—
取締役	—	坂本 森男	昭和30年1月20日生	昭和54年4月 平成18年7月 平成19年4月 平成20年7月 平成21年7月 平成21年9月 平成22年6月	自治省入省 総務省自治行政局行政課長 総務省大臣官房付併任大臣官房審議官 厚生労働省大臣官房審議官 千葉県副知事(現任) 当社非常勤顧問 当社取締役(現任)	(注)3	—
取締役	—	塩川 修	昭和24年10月1日生	昭和48年4月 平成15年9月 平成16年4月 平成19年4月 平成20年4月 平成21年4月 平成23年3月 平成23年6月	埼玉県入庁 埼玉県知事秘書 埼玉県知事室長 埼玉県総務部長 埼玉県企画財政部長 埼玉県副知事(現任) 当社非常勤顧問 当社取締役(現任)	(注)3	—
常勤監査役	—	高津 満好	昭和23年7月9日生	昭和46年4月 平成15年6月 平成17年7月 平成19年6月 平成21年7月 平成23年6月	東京都入庁 東京都中央卸売市場事業部長 東京都中央卸売市場管理部長 ㈱多摩ニュータウン開発センター代表取締役社長 (財)東京都道路整備保全公社常務理事 当社常勤監査役(現任)	(注)4	—
監査役	—	小林 彰	昭和29年3月16日生	昭和51年4月 平成21年4月 平成22年4月 平成24年4月 平成25年4月 平成25年6月	茨城県入庁 茨城県総務部地域支援局市町村課長 茨城県商工労働部次長 茨城県総務部理事兼地域支援局長 茨城県会計責任者 会計事務局長(現任) 当社監査役(現任)	(注)4	—
監査役	—	庄司 英実	昭和29年11月25日生	昭和53年4月 平成22年4月 平成23年4月 平成24年4月 平成25年4月 平成25年6月	千葉県入庁 千葉県東京事務所長 千葉県有害鳥獣・三番瀬担当部長 千葉県観光担当部長 千葉県会計管理者(現任) 当社監査役(現任)	(注)5	—
計							—

(注) 1 取締役 飯尾豊、榊真一、坂本森男、塩川修の各氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役です。

2 監査役3名は、会社法第2条第16号に定める社外監査役です。

3 代表取締役社長、代表取締役専務、常務取締役、取締役の任期は、平成25年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成27年3月期に係る定時株主総会終結の時までです。

4 常勤監査役 高津満好、監査役 小林彰の任期は、平成25年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成28年3月期に係る定時株主総会終結の時までです。

5 監査役 庄司英実の任期は平成25年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成27年3月期に係る定時株主総会終結の時までです。

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

① 会社の機関について

イ 取締役会

取締役会は経営の基本方針及び業務遂行に関する重要事項を決定し、取締役の職務の執行を監督しています。取締役会の員数については、定款で15名以内とする旨定めており、期末日(平成25年3月31日)現在において、取締役は10名、うち社外取締役3名の体制でした。第24期は取締役11名、うち社外取締役4名の体制となります。

ロ 監査役会

当社は監査役会制度を採用しています。第23期の当社の監査役は3名であり、全員が社外監査役の体制でした。第24期も同様の体制になります。各監査役は、監査役会で策定された監査方針及び監査計画に基づき、取締役会等への出席、業務及び財産の状況調査を通して、取締役の職務遂行を監査しています。

② 社外取締役及び社外監査役の人的関係、資本的关系、又は取引関係その他の利害関係の概要

イ 社外取締役及び社外監査役は、当社のその他の取締役、監査役と人的関係を有せず、当社との間に特に利害関係はありません。

ロ 社外取締役4名は、各々1都3県(東京都、茨城県、千葉県、埼玉県)の副知事等が、社外監査役のうち2名は、各々茨城県、千葉県の会計管理者が就任することになっていますが、各社外取締役及び各社外監査役は自治体での豊富な識見を有しております。

③ コンプライアンス体制の強化

平成18年6月の取締役会において、「取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他当社の業務の適正を確保するために必要な体制の整備」に関する方針が「内部統制システムの基本方針」として決議されました。

この基本方針に基づき、平成18年12月には「コンプライアンス基本方針」及び「企業倫理指針」を定め、内部統制システムの充実に努めています。

「内部統制システムの基本方針」

イ 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役の職務の執行に係わる重要な文書(電磁的記録を含む)は法令、定款及び社内規程等に従い適正に保存管理する。

ロ 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- 1 会社は経営に影響を及ぼすリスクの把握に努め、当該リスクの低減、防止のための管理体制を整える。
- 2 不測の事態が発生した場合には、迅速な対応を行い、損害の拡大を防止しこれを最小限に止める体制を整える。

ハ 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- 1 取締役の職務の執行を効率的に行うため、取締役会を定時に開催するほか、必要に応じて随時開催するものとする。
- 2 取締役会の決定に基づく業務執行については、組織・職務権限等の社内規程に基づき、適正かつ効率的な執行体制を確保する。
- 3 当社の重要事項の決定、執行については、事前に常勤の取締役等において充分検討を行う。

ニ 取締役及び使用人の職務及び業務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- 1 取締役及び使用人は職務及び業務を遂行するにあたり、法令、定款及び社内規程等を遵守する。
 - 2 取締役会は、取締役及び使用人の適正な職務及び業務の執行を確保するための体制を整備する。
- ホ 監査役の職務を補助すべき使用人に関する体制及び当該使用人の取締役からの独立性に関する事項
- 1 監査役の職務を補助すべき使用人については、当社の使用人から監査役補助者を任命することとする。
 - 2 監査役補助者の任命にあたっては、監査役会の意見を尊重する。
- ヘ 取締役及び使用人が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制及び監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制
- 1 監査役への報告は、取締役会、役員会及びその他重要な会議への出席、重要な文書の回覧等により行う。
 - 2 取締役及び使用人は、当社の業務に重大な影響を及ぼす重要な事項について監査役に報告するものとする。また、前記に関わらず、監査役は必要に応じて、取締役及び使用人に対して報告を求めることができる。

④ 役員報酬の内容

- イ 取締役の年間報酬総額 1 億6百万円(非常勤の社外取締役は無報酬)
- ロ 監査役の年間報酬総額13百万円(非常勤の社外監査役は無報酬)

⑤ 会計監査の状況

業務を執行した公認会計士の氏名、所属する監査法人名及び継続監査年数

公認会計士の氏名等		所属する監査法人名
指定有限責任社員 業務執行社員	長 光雄	新日本有限責任監査法人
	久保 隆	

*継続監査年数については、全員7年以内であるため、記載を省略しています。

*同監査法人はすでに自主的に業務執行社員について、当社の会計監査に一定期間を超えて関与することのないよう措置をとっています。

監査業務に係る補助者の構成

公認会計士 6名 その他 2名

(注) その他は、公認会計士試験合格者です。

⑥ 監査役監査の手続及び会計監査との相互連携

監査役は随時取締役の職務執行の監査を実施するとともに、適宜会計監査人と意見交換を行っています。

⑦ 取締役の選任

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、出席した当該株主の議決権の過半数をもって選任する旨定款に定めています。取締役の選任決議について累積投票によらないものとしています。

⑧ 株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会の円滑な運営を行うため、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行なう旨を定款に定めています。

⑨ 取締役の責任免除

当社は、職務の遂行にあたり期待される役割を十分に発揮できるようにするため、会社法第426条第1項の規定により、取締役（取締役であった者を含む。）の損害賠償責任を、法令の限度において、取締役会の決議によって免除することができる旨定款に定めています。

⑩ 監査役の責任免除

当社は、職務の遂行にあたり期待される役割を十分に発揮できるようにするため、会社法第426条第1項の規定により、監査役（監査役であった者を含む。）の損害賠償責任を、法令の限度において、取締役会の決議によって免除することができる旨定款に定めています。

(2) 【監査報酬の内容等】

① 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

前事業年度		当事業年度	
監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)
13	—	13	—

② 【その他重要な報酬の内容】

なし

③ 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

なし

④ 【監査報酬の決定方針】

なし

第5 【経理の状況】

1 財務諸表の作成方法について

当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)及び「鉄道事業会計規則」(昭和62年運輸省令第7号)に基づいて作成しています。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、事業年度(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)の財務諸表について、新日本有限責任監査法人により監査を受けています。

3 連結財務諸表について

当社は、子会社がないため、連結財務諸表は作成していません。

4 財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、財務諸表等の適正性を確保するため、監査法人等主催のセミナー、研修へ参加しています。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

該当事項はありません。

(2) 【その他】

該当事項はありません。

2 【財務諸表等】
(1) 【財務諸表】
① 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,864,937	4,225,045
未収運賃	2,338,500	2,272,426
未収金	115,155	172,530
未収収益	140,239	86,742
短期貸付金	8,214,050	11,621,000
有価証券	33,950,260	29,514,528
貯蔵品	438,218	469,277
繰延税金資産	715,240	1,060,188
その他の流動資産	37,882	27,989
流動資産合計	50,814,485	49,449,730
固定資産		
鉄道事業固定資産		
有形固定資産	※1, ※2, ※3 811,276,844	※1, ※2, ※3 816,561,241
減価償却累計額	△120,289,783	△138,358,688
有形固定資産（純額）	690,987,060	678,202,553
無形固定資産	45,717,660	45,208,612
鉄道事業固定資産合計	736,704,721	723,411,165
建設仮勘定	2,233,723	1,348,995
投資その他の資産		
投資有価証券	89,242,533	92,757,696
長期貸付金	299,544,460	287,905,460
その他の投資等	15,255	15,938
貸倒引当金	△191,100	△175,496
投資その他の資産合計	388,611,150	380,503,599
固定資産合計	1,127,549,594	1,105,263,760
資産合計	1,178,364,080	1,154,713,491

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
負債の部		
流動負債		
短期借入金	8,214,050	11,621,000
リース債務	2,662	1,438
未払金 ※1	21,454,355	23,497,050 ※1
未払費用	123,773	114,197
未払法人税等	90,940	308,579
預り連絡運賃	311,312	19,319
預り金 ※3	1,090,689	1,183,140 ※3
前受運賃	2,172,188	2,369,611
賞与引当金	305,640	317,959
その他の流動負債	261,025	72,778
流動負債合計	34,026,639	39,505,075
固定負債		
長期借入金	299,568,460	287,947,460
リース債務	1,834	714
長期未払金 ※1	677,596,135	656,822,545 ※1
退職給付引当金	767,473	949,756
役員退職慰労引当金	49,378	43,093
その他の固定負債 ※3	1,056,131	1,053,556 ※3
固定負債合計	979,039,415	946,817,126
負債合計	1,013,066,054	986,322,202
純資産の部		
株主資本		
資本金	185,016,300	185,016,300
利益剰余金		
繰越利益剰余金	△19,718,274	△16,625,011
利益剰余金合計	△19,718,274	△16,625,011
株主資本合計	165,298,025	168,391,288
純資産合計	165,298,025	168,391,288
負債純資産合計	1,178,364,080	1,154,713,491

②【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
鉄道事業営業利益		
営業収益		
旅客運輸収入	34,737,061	36,535,903
運輸雑収	1,337,714	1,365,375
鉄道事業営業収益合計	36,074,775	37,901,279
営業費		
運送費	10,382,090	11,158,177
一般管理費	859,889	846,330
諸税	2,402,775	2,290,996
減価償却費	19,734,652	19,869,480
鉄道事業営業費合計	33,379,407	34,164,984
鉄道事業営業利益	2,695,367	3,736,294
営業外収益		
受取利息	7,339	7,292
有価証券利息	891,854	633,867
雑収入	3,746	10,639
貸倒引当金戻入額	—	15,603
営業外収益合計	902,940	667,403
営業外費用		
支払利息	1,345,836	1,345,893
雑支出	69,113	81,612
営業外費用合計	1,414,950	1,427,505
経常利益	2,183,358	2,976,191
特別損失		
災害による損失	※1 353,066	—
特別損失合計	353,066	—
税引前当期純利益	1,830,292	2,976,191
法人税、住民税及び事業税	15,560	227,877
法人税等調整額	△715,240	△344,948
法人税等合計	△699,680	△117,070
当期純利益	2,529,972	3,093,262

【営業費明細表】

		前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)			当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)		
区分	注記 番号	金額(千円)			金額(千円)		
I 鉄道事業営業費							
1 運送費							
人件費		4,246,100			4,224,558		
経費		6,135,989			6,933,619		
計			10,382,090			11,158,177	
2 一般管理費							
人件費		504,572			497,426		
経費		355,316			348,903		
計			859,889			846,330	
3 諸税			2,402,775			2,290,996	
4 減価償却費			19,734,652			19,869,480	
鉄道事業営業費合計				33,379,407			34,164,984
全事業営業費合計				33,379,407			34,164,984

(注) 鉄道事業営業費合計の100分の5を超える主な費用並びに鉄道事業営業費に含まれている引当金繰入額等は、次のとおりです。

1 鉄道事業営業費	前事業年度	当事業年度
運送費		
給与	2,039,753千円	1,980,217千円
修繕費	3,006,714	3,220,222
2 鉄道事業営業費に含まれている引当金繰入額等		
賞与引当金繰入額	301,410千円	315,011千円
退職給付費用	156,496	189,191
役員退職慰労引当金繰入額	14,637	18,183

③【株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	185,016,300	185,016,300
当期末残高	185,016,300	185,016,300
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金		
当期首残高	△22,248,246	△19,718,274
当期変動額		
当期純利益	2,529,972	3,093,262
当期変動額合計	2,529,972	3,093,262
当期末残高	△19,718,274	△16,625,011
株主資本合計		
当期首残高	162,768,053	165,298,025
当期変動額		
当期純利益	2,529,972	3,093,262
当期変動額合計	2,529,972	3,093,262
当期末残高	165,298,025	168,391,288
純資産合計		
当期首残高	162,768,053	165,298,025
当期変動額		
当期純利益	2,529,972	3,093,262
当期変動額合計	2,529,972	3,093,262
当期末残高	165,298,025	168,391,288

④【キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前当期純利益	1,830,292	2,976,191
減価償却費	19,734,652	19,869,480
貸倒引当金の増減額（△は減少）	—	△15,603
賞与引当金の増減額（△は減少）	3,202	12,318
役員退職慰労引当金の増減額（△は減少）	△33,880	△6,285
退職給付引当金の増減額（△は減少）	137,046	182,282
受取利息及び受取配当金	△899,194	△641,159
支払利息	1,345,836	1,345,893
災害損失	353,066	—
営業債権の増減額（△は増加）	△332,517	66,074
未収入金の増減額（△は増加）	△21,426	△57,376
貯蔵品の増減額（△は増加）	△80,333	△31,059
未払金の増減額（△は減少）	70,469	225,495
未払費用の増減額（△は減少）	△5,777	△9,575
営業債務の増減額（△は減少）	8,558	△291,993
預り金の増減額（△は減少）	185,779	92,451
前受金の増減額（△は減少）	8,601	197,422
その他	3,867	△24,774
小計	22,308,244	23,889,782
利息の受取額	1,104,859	885,469
利息の支払額	△1,344,756	△1,345,021
災害損失の支払額	△823,731	—
法人税等の還付額	1	2
法人税等の支払額	△15,560	△15,560
営業活動によるキャッシュ・フロー	21,229,057	23,414,672
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△31,314,405	△31,990,068
有価証券の償還による収入	31,100,000	30,000,000
有形固定資産の取得による支出	△1,443,846	△4,835,417
無形固定資産の取得による支出	△57,187	△196,987
投資有価証券の取得による支出	△25,992,042	△25,222,032
投資有価証券の償還による収入	27,728,650	27,940,000
貸付金の回収による収入	5,621,950	8,232,050
その他	3,696	△52
投資活動によるキャッシュ・フロー	5,646,815	3,927,492
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△5,609,950	△8,214,050
長期未払金の返済による支出	△20,763,817	△19,765,290
リース債務の返済による支出	△2,438	△2,716
財務活動によるキャッシュ・フロー	△26,376,205	△27,982,057
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	499,667	△639,891
現金及び現金同等物の期首残高	4,365,270	4,864,937
現金及び現金同等物の期末残高	4,864,937	4,225,045

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券

償却原価法(定額法)

2 たな卸資産の評価基準及び評価方法

貯蔵品

総平均法による原価法（収益性の低下による簿価切り下げの方法）によっています。

3 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっています。

なお、鉄道事業固定資産の構築物のうち取替資産については、取替法を採用しています。また、耐用年数及び残存価額においては法人税法に規定する方法と同一の基準によっています。

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっています。

なお、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっています。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零として算定する定額法によっています。

4 工事負担金等の圧縮記帳処理

鉄道建設工事を行うにあたり、自治体等より工事費の一部として工事負担金等を受けています。これらの工事負担金等は、工事完成時に当該負担金等相当額を取得した固定資産の取得原価から直接減額して計上しています。

5 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権等の貸倒れによる損失に備えるために、貸倒実績率による他、個別の回収不能見込額を計上しています。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与の支払に備えるため、賞与支給見込額の当会計期間負担額を計上しています。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務の見込額に基づき、当期末において発生していると認められる額を計上しています。

(4) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、役員退職慰労金支給内規に基づく期末要支給額を計上しています。

6 キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりスクしか負わない短期的な投資からなっています。

7 その他財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっています。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(未適用の会計基準等)

- ・「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日)
- ・「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日)

(1) 概要

本会計基準等は、財務報告を改善する観点及び国際的な動向を踏まえ、未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の処理方法、退職給付債務及び勤務費用の計算方法並びに開示の拡充を中心に改正されたものです。

(2) 適用予定日

平成26年3月期の期末より適用予定です。ただし、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の改正については、平成27年3月の期首より適用予定です。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当該財務諸表の作成時において評価中です。

(貸借対照表関係)

※ 1 有形固定資産のうち割賦払いの方法で購入し所有権が留保されているもの

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
車両	9,815,515千円	1,904,064千円
対応する債務		
未払金	544,341千円	533,709千円

長期未払金

648,479千円

114,769千円

※ 2 鉄道事業固定資産の取得原価から直接減額された工事負担金累計額

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
	2,865,237千円	2,865,237千円

※ 3 有形固定資産のうち建設協力金で取得した資産で担保されているもの

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
建物	105,437千円	100,554千円
対応する債務		
預り金	13,627千円	13,627千円
その他の固定負債	43,363千円	29,438千円

(損益計算書関係)

※ 1 災害による損失

前事業年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

東日本大震災による鉄道施設の復旧費用等に係る特別損失です。

主な内訳は、利根川東高架橋復旧工事322,330千円、駅施設等復旧工事30,736千円です。

当事業年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

該当事項はありません。

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	3,656,240	—	—	3,656,240
後配株式(株)	44,086	—	—	44,086
計	3,700,326	—	—	3,700,326

2 自己株式に関する事項

該当事項はありません。

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

該当事項はありません。

当事業年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	3,656,240	—	—	3,656,240

後配株式(株)	44,086	—	—	44,086
計	3,700,326	—	—	3,700,326

2 自己株式に関する事項

該当事項はありません。

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

該当事項はありません。

(キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目と金額との関係

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
現金及び預金勘定	4,864,937千円	4,225,045千円
現金及び現金同等物	4,864,937千円	4,225,045千円

(リース取引関係)

1 ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

(借主側)

① リース資産の内容

有形固定資産

車両運搬具

② リース資産の減価償却の方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零として算定する定額法によっています。

2 オペレーティング・リース取引のうち、解約不能のものに係る未経過リース料

(貸主側)

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
1年以内	232,803千円	44,757千円
1年超	778,360千円	946,648千円
合計	1,011,163千円	991,405千円

(借主側)

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
1年以内	306,396千円	306,396千円
1年超	4,928,848千円	4,622,451千円
合計	5,235,244千円	4,928,848千円

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社の資金運用は主に決済性預金、及び安全性の高い金融資産(国債、政府保証債、地方債、鉄道・運輸機構債)での運用としています。

なお、デリバティブで投機的な取引は行いません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である未収運賃、未収金は取引先への信用リスクに晒されています。但し、未収運賃は同業他社との連絡運賃のため発生するものであり、2ヶ月程度の短期の回収期日になっています。未収金については、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行って信用管理を行っていますが、3ヶ月程度の短期の回収期日になっています。

有価証券及び投資有価証券は、全て満期保有目的の債券(国債、政府保証債、地方債、鉄道・運輸機構債)であり、市場価格の変動リスク、発行体の信用リスクに晒されていますが、定期的に時価や発行体の財務状況等を把握し、信用管理を行っています。

営業債務である未払金、預り連絡運賃、預り金は1年以内の支払期日です。

短期貸付金・短期借入金は、1年以内に回収期限又は返済期限となる無利子の長期貸付金・長期借入金です。

長期貸付金のうち無利子貸付金は、一体化法(大都市地域における宅地開発及び鉄道整備の一体的推進に関する特別措置法)第20条、第21条により関係自治体が定めた『建設資金貸付要綱』に基づき実施された無利子貸付を鉄道・運輸機構に対し、同条件の無利子貸付として転貸する制度貸付です。

その他の長期貸付金については、取引先の状況を定期的にモニタリングしています。また、不動産(貸ビル)に対し抵当権を設定・登記し、債権保全を図っています。

長期借入金は上述の『建設資金貸付要綱』に基づき当社が借入した無利子借入金です。

長期未払金のうち車両長期未払金は鉄道車両の割賦購入代金で、割賦利率は固定金利です。また、鉄道施設に係る鉄道・運輸機構に対する長期未払金の割賦利率は国土交通大臣が定めることとなっており、実質的に変動金利となっています。

また、長期借入金、長期未払金は流動性リスクに晒されていますが、月次に資金繰計画を作成するなどの方法により管理しています。

2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりです。

前事業年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

(単位：千円)

	貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	4,864,937	4,864,937	—
(2) 未収運賃及び未収金	2,453,656	2,453,656	—
(3) 短期貸付金	8,214,050	8,200,483	△13,566
(4) 有価証券及び投資有価証券	123,192,794	123,885,662	692,868
(5) 長期貸付金	299,544,460		
貸倒引当金(※1)	△191,100		
	299,353,360	275,253,556	△24,099,803

資産計	438,078,798	414,658,296	△23,420,501
(1) 短期借入金	8,214,050	8,200,114	△13,935
(2) リース債務	2,662	2,658	△4
(3) 未払金(※2)	21,454,355	21,480,679	26,323
(4) 預り連絡運賃	311,312	311,312	—
(5) 預り金	1,090,689	1,090,689	—
(6) 長期借入金	299,568,460	275,361,157	△24,207,302
(7) 長期リース債務	1,834	1,817	△17
(8) 長期未払金	677,596,135	677,603,526	7,390
負債計	1,008,239,501	984,051,956	△24,187,545

(※1)長期貸付金に個別に計上している貸倒引当金を控除しています。

(※2)未払金には長期未払金の1年以内返済額19,762,071千円が含まれています。

当事業年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

(単位：千円)

	貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	4,225,045	4,225,045	—
(2) 未収運賃及び未収金	2,444,956	2,444,956	—
(3) 短期貸付金	11,621,000	11,605,680	△15,319
(4) 有価証券及び投資有価証券	122,272,225	122,874,759	602,533
(5) 長期貸付金	287,905,460		
貸倒引当金(※1)	△175,496		
	287,729,964	275,205,332	△12,524,631
資産計	428,293,192	416,355,774	△11,937,418
(1) 短期借入金	11,621,000	11,605,264	△15,735
(2) リース債務	1,438	1,437	△1
(3) 未払金(※2)	23,497,050	23,507,685	10,634
(4) 預り連絡運賃	19,319	19,319	—
(5) 預り金	1,183,140	1,183,140	—
(6) 長期借入金	287,947,460	275,364,179	△12,583,281
(7) 長期リース債務	714	709	△5
(8) 長期未払金	656,822,545	656,823,018	473
負債計	981,092,669	968,504,753	△12,587,916

(※1)長期貸付金に個別に計上している貸倒引当金を控除しています。

(※2)未払金には長期未払金の1年以内返済額 20,770,371千円が含まれています。

(注1)金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金 (2) 未収運賃及び未収金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。

(3) 短期貸付金

短期貸付金は無利子長期貸付金の1年以内返済額であり、時価については、無利子長期貸付金と同様の条件により算定しています。

(4) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、取引金融機関から提示された価格によっています。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については「有価証券関係」注記を参照ください。

なお、当事業年度中に売却した満期保有目的の債券はありません。

(5) 長期貸付金

無利子長期貸付金については、『金融商品の状況に関する事項』で既述のとおり、転貸を前提とした制度融資ですが、時価算定に当たっては、国債流通利回りに信用スプレッドを加味した利率を見積り、その利率で将来キャッシュ・フローを割り引いた現在価値により算定しています。

その他の長期貸付金については、回収見込額等に基づいて貸倒引当金を設定しているため、当該価額をもって時価としています。

負 債

(1) 短期借入金 (2) リース債務

短期借入金、リース債務は長期債務の1年以内返済額であり、時価については、長期借入金、長期リース債務と同様の条件により算定しています。

(3) 未払金 (4) 預り連絡運賃 (5) 預り金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。

なお、未払金のうち、車両未払金、機構未払金については長期債務の1年以内返済額であり、時価については、車両長期未払金、機構長期未払金と同様の条件により算定しています。

(6) 長期借入金

『金融商品の状況に関する事項』で既述のとおり、転貸を前提とした制度融資ですが、時価算定に当たっては、元金について新規借入を行った場合の利率を見積もり、その利率で元金を割り引いた現在価値により算出しています。

(7) 長期リース債務

長期リース債務の時価については、新規にリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しています。

(8) 長期未払金

① 車両長期未払金

車両長期未払金の時価については、元利金合計を割賦取引を行った場合に想定される割賦利率で割り

引いて算定する方法によっています。

② 機構長期未払金

機構長期未払金は、『金融商品の状況に関する事項』で既述のとおり、市場原理に従って契約当事者間の自由な合意のみによって成立するものではなく、法令の制約を受ける特殊な金銭債務です。割賦利率は国土交通大臣が定めることとなっており、実質的に鉄道・運輸機構が調達する変動金利を当社が支払うこととなっています。ただし、時価については、元利金の合計額を当社が新規の借入を行った場合に想定される金利で割り引いて算定する方法によっています。なお、変動金利による機構長期未払金の将来キャッシュ・フローについては、鉄道・運輸機構より通知された直近の利率に基づき算定しています。

(注2) 金銭債権及び満期がある有価証券の決算日後の償還予定額

前事業年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

(単位：千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
預金	4,525,604	—	—	—
未収運賃及び未収金	2,453,656	—	—	—
有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券(国債・地方債等)	33,940,000	88,569,600	—	—
長期貸付金	8,232,050	82,583,900	146,638,380	70,304,180
合計	49,151,311	171,153,500	146,638,380	70,304,180

長期貸付金の1年以内償還額を含めて表示しています。

当事業年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

(単位：千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
預金	3,758,288	—	—	—
未収運賃及び未収金	2,444,956	—	—	—
有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券(国債・地方債等)	29,514,528	92,757,696	—	—
長期貸付金	11,639,000	101,968,000	139,481,540	46,437,920
合計	47,356,774	194,725,696	139,481,540	46,437,920

長期貸付金の1年以内償還額を含めて表示しています。

(注3) 長期借入金、長期リース債務、及び長期未払金の決算日後の返済予定額

前事業年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

(単位：千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
長期借入金	8,214,050	11,621,000	16,634,800	24,858,700	29,517,400	216,936,560

長期リース債務	2,662	1,364	280	121	68	—
長期未払金	19,762,071	20,544,709	19,550,769	18,823,000	18,203,000	600,474,656
合計	27,978,784	32,167,073	36,185,849	43,681,821	47,720,468	817,411,216

長期借入金、長期リース債務、長期未払金の1年以内返済額を含めて表示しています。

当事業年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

(単位：千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
長期借入金	11,621,000	16,634,800	24,858,700	29,517,400	31,062,100	185,874,460
長期リース債務	1,438	354	196	143	20	—
長期未払金	20,770,371	20,240,769	18,855,000	18,303,000	17,701,000	581,722,775
合計	32,392,810	36,875,924	43,713,896	47,820,543	48,763,120	767,597,235

長期借入金、長期リース債務、長期未払金の1年以内返済額を含めて表示しています。

(有価証券関係)

前事業年度

1 満期保有目的の債券(平成24年3月31日)

(単位：千円)

区分	貸借対照表日における 貸借対照表計上額	貸借対照表日における時価	差額
時価が貸借対照表計上額を 超えるもの	111,287,027	111,982,729	695,701
時価が貸借対照表計上額を 超えないもの	11,905,767	11,902,933	△2,833
計	123,192,794	123,885,662	692,868

当事業年度

1 満期保有目的の債券(平成25年3月31日)

(単位：千円)

区分	貸借対照表日における 貸借対照表計上額	貸借対照表日における時価	差額
時価が貸借対照表計上額を 超えるもの	117,451,363	118,055,319	603,955
時価が貸借対照表計上額を 超えないもの	4,820,862	4,819,440	△1,422
計	122,272,225	122,874,759	602,533

(デリバティブ取引関係)

前事業年度(自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)及び当事業年度(自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)

当社は、デリバティブ取引を全く利用していないので、該当事項はありません。

(退職給付関係)

前事業年度(自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)

1 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として、退職一時金制度を設けています。

なお、従業員の退職等に際して割増退職金を支払う場合があります。

2 退職給付債務に関する事項

①退職給付債務	896,401千円
②未認識数理計算上の差異	△128,927千円
③退職給付引当金	767,473千円

3 退職給付費用に関する事項

①勤務費用	139,316千円
②利息費用	13,561千円
③数理計算上の差異の費用処理額	5,584千円
④退職給付費用	158,462千円

4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

①退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準
②割引率	2.0%

③数理計算上の差異の処理年数	発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による按分額を費用処理する方法。ただし、翌事業年度から費用処理することとしています。
----------------	---

当事業年度(自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)

1 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として、退職一時金制度を設けています。

なお、従業員の退職等に際して割増退職金を支払う場合があります。

2 退職給付債務に関する事項

①退職給付債務	1,078,658千円
②未認識数理計算上の差異	128,901千円
③退職給付引当金	949,756千円

3 退職給付費用に関する事項

①勤務費用	158,656千円
②利息費用	17,928千円
③数理計算上の差異の費用処理額	14,270千円
④退職給付費用	190,854千円

4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

①退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準
②割引率	2.0%

③数理計算上の差異の処理年数	発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による按分額を費用処理する方法。ただし、翌事業年度から費用処理することとしています。
----------------	---

(ストック・オプション等関係)

前事業年度(自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)及び当事業年度(自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
繰延税金資産		
繰越欠損金	4,469,967千円	2,615,860千円
賞与引当金	116,174千円	120,856千円
退職給付引当金	273,527千円	338,493千円
役員退職慰労引当金	17,598千円	15,358千円
貸倒引当金	68,108千円	62,546千円
換地処分益	—	735,192千円
その他	48,877千円	66,963千円
繰延税金資産小計	4,994,252千円	3,955,271千円
評価性引当額	△4,279,012千円	△2,895,082千円
繰延税金資産合計	715,240千円	1,060,188千円
繰延税金負債	—	—
繰延税金資産の純額	715,240千円	1,060,188千円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税などの負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
法定実効税率	40.7%	38.0%
(調整)		
永久に損金に算入されない項目	0.1%	0.0%
住民税均等割	0.9%	0.5%
評価性引当額の増減額	△86.0%	△46.5%
修正申告による影響額	—	△24.7%
繰越欠損金の期限切れ	3.3%	33.7%
税率変更による期末繰延税金資産 の減額修正	2.8%	—
その他	0.1%	△5.0%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	△38.2%	△3.9%

(賃貸等不動産関係)

前事業年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

当社は、鉄道事業資産の有効利用を図るため、一部を賃貸していますが、賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため、注記を省略しています。

当事業年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

当社は、鉄道事業資産の有効利用を図るため、一部を賃貸していますが、賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため、注記を省略しています。

(持分法損益等)

前事業年度(自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)及び当事業年度(自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)

関連会社がないため、該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前事業年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)及び当事業年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1 報告セグメントの概要

当社の事業セグメントは、鉄道事業のみの単一セグメントであり、重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しています。

【関連情報】

前事業年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

単一のサービスの区分の外部顧客への売上高が損益計算書の90%を超えるため、記載を省略しています。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高に区分した金額が損益計算書の90%を超えるため、地域ごとの売上高の記載を省略しています。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しています。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、損益計算書の売上高の10%を占める相手先がないため、記載はありません。

当事業年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

単一のサービスの区分の外部顧客への売上高が損益計算書の90%を超えるため、記載を省略しています。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高に区分した金額が損益計算書の90%を超えるため、地域ごとの売上高の記載を省略しています。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しています。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、損益計算書の売上高の10%を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前事業年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前事業年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前事業年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前事業年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

1 関連当事者との取引

(1) 財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等に限る)等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
主要株主	東京都	東京都 新宿区	—	地方行政	(所有) 直接 17.65 間接 —	当事業もその 一部となる常磐 新線プロジェクト 共同推進者	長期借入金 (無利子) 返済	2,243,980	長期借入金	122,813,004
主要株主	茨城県	茨城県 水戸市	—	地方行政	(所有) 直接 18.05 間接 —	当事業もその 一部となる常磐 新線プロジェクト 共同推進者 役員の兼任2名	長期借入金 (無利子) 返済	1,682,985	長期借入金	92,109,753

(注) 1 茨城県の副知事が非常勤取締役、茨城県の会計管理者が非常勤監査役に就任しています。

2 取引条件ないし取引条件の決定方法等

東京都及び茨城県の無利子借入の概要については、「第2 事業の状況」の「5 経営上の重要な契約等」の(2)に記載しています。

また、当社に対する増資等の割合は、関係自治体相互の協定により決定されています。

3 長期借入金の残高には短期借入金(1年以内返済予定額)を含めて表示しています。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

該当事項はありません。

当事業年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1 関連当事者との取引

(1) 財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等に限る)等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
主要株主	東京都	東京都 新宿区	—	地方行政	(所有) 直接 17.65 間接 —	当事業もその 一部となる常磐 新線プロジェクト 共同推進者 役員の兼任1名	長期借入金 (無利子) 返済	3,285,620	長期借入金	119,527,384
主要株主	茨城県	茨城県 水戸市	—	地方行政	(所有) 直接 18.05 間接 —	当事業もその 一部となる常磐 新線プロジェクト 共同推進者 役員の兼任1名	長期借入金 (無利子) 返済	2,464,215	長期借入金	89,645,538

(注) 1 東京都の都市整備局長が非常勤取締役、茨城県の会計責任者が非常勤監査役に就任しています。

2 取引条件ないし取引条件の決定方法等

東京都及び茨城県の無利子借入の概要については、「第2 事業の状況」の「5 経営上の重要な契約等」の(2)に記載しています。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
1株当たり純資産額	44,671.20円	45,507.14円
1株当たり当期純利益	683.71円	835.94円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式がないため記載していません。

2. 1株当たり当期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益	2,529,972千円	3,093,262千円
普通株式及び普通株式と同等の株式に係る当期純利益	2,529,972千円	3,093,262千円
普通株主及び普通株主と同等の株主に帰属しない金額	—	—
普通株式及び普通株式と同等の株式の期中平均株式数		
普通株式	3,656,240株	3,656,240株
後配株式	44,086株	44,086株
計	3,700,326株	3,700,326株

3. 1株当たり純資産額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
貸借対照表の純資産の部の合計額	165,298,025千円	168,391,288千円
普通株式及び普通株式と同等の株式に係る純資産額	165,298,025千円	168,391,288千円
普通株式及び普通株式と同等の株式の発行済株式数		
普通株式	3,656,240株	3,656,240株
後配株式	44,086株	44,086株
計	3,700,326株	3,700,326株
1株当たり純資産額の算定に用いられた普通株式及び普通株式と同等の株式の数		
普通株式	3,656,240株	3,656,240株
後配株式	44,086株	44,086株
計	3,700,326株	3,700,326株

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

⑤ 【附属明細表】

【有価証券明細表】

種類及び銘柄			券面総額(千円)	貸借対照表計上額(千円)
有価証券	満期保有 目的の債 券	第349回国庫短期証券	8,000,000	7,998,360
		第20回鉄道建設・運輸機構債	7,000,000	6,999,657
		第27回鉄道建設・運輸機構債	6,000,000	5,999,893
		第24回鉄道建設・運輸機構債	3,000,000	2,999,983
		第23回鉄道建設・運輸機構債	3,000,000	2,999,767
		東京都第600回公募公債	1,000,000	1,002,683
		埼玉県平成15年度ホ号公債	504,000	509,816
		埼玉県平成15年度第4回公募公債	500,000	504,088
		千葉県平成15年度第2回ア号公債	500,000	500,278
		小計	29,504,000	29,514,528
有価証券	満期保有 目的の債 券	第22回政府保証都市再生債券	10,000,000	9,995,603
		第34回鉄道建設・運輸機構債	6,000,000	6,000,000
		第192回政府保証預金保険機構債券	6,000,000	5,990,405
		第29回鉄道建設・運輸機構債	5,500,000	5,499,360
		第32回鉄道建設・運輸機構債	5,000,000	5,000,000
		第113回政府保証日本高速道路保有 ・債務返済機構債券	4,000,000	4,010,865
		第31回鉄道建設・運輸機構債	4,000,000	4,000,000
		第140回政府保証日本高速道路保有 ・債務返済機構債券	3,000,000	3,003,910
		第156回政府保証日本高速道路保有 ・債務返済機構債券	3,000,000	3,002,701
		第52回鉄道建設・運輸機構債	3,000,000	3,000,000
		第26回鉄道建設・運輸機構債	3,000,000	2,999,654
		第92回利付国債（5年）	3,000,000	2,995,973
		第346回政府保証道路債	2,800,000	2,869,649
		第5回政府保証日本高速道路保有・ 債務返済機構債券	2,700,000	2,792,902
		6年第1回政府保証地方公共団体金融 機構債券	2,500,000	2,524,120
		第36回鉄道建設・運輸機構債	2,500,000	2,500,000
		第177回政府保証預金保険機構債券	2,500,000	2,499,131
		第190回政府保証預金保険機構債券	2,500,000	2,495,616

種類及び銘柄			券面総額(千円)	貸借対照表計上額(千円)
投資 有価証券	満期保有 目的の債 券	第181回政府保証預金保険機構債券	2,100,000	2,100,293
		第50回鉄道建設・運輸機構債	2,000,000	2,000,000
		第46回鉄道建設・運輸機構債	2,000,000	2,000,000
		第48回鉄道建設・運輸機構債	2,000,000	2,000,000
		4年第1回政府保証地方公共団体金融 機構債券	2,000,000	1,998,799
		第1回政府保証日本高速道路保有・ 債務返済機構債券	1,800,000	1,858,607
		第339回政府保証道路債	1,650,000	1,685,986
		第30回政府保証日本高速道路保有・ 債務返済機構債券	1,500,000	1,580,017
		茨城県平成18年度第2回公募公債	1,015,600	1,060,193
		第144回政府保証日本高速道路保有 ・債務返済機構債券	900,000	902,594
		第1回政府保証東日本高速道路債券	700,000	723,617
		第19回政府保証日本高速道路保有・ 債務返済機構債券	500,000	522,412
		第859回政府保証公営企業債	500,000	517,077
		東京都第615回公募公債	500,000	509,316
		千葉県平成21年度第13回公募公債	500,000	502,736
		第191回政府保証預金保険機構債券	500,000	498,907
		第334回政政府保証道路債	400,000	408,622
		第51回政府保証日本高速道路保有・ 債務返済機構債券	300,000	305,178
		千葉県平成16年度第5回公募公債	100,000	102,346
		千葉県平成23年度第3回公募公債回	100,000	101,051
第23回政府保証都市再生機構債券	100,000	100,053		
千葉県平成24年度第10回公募公債	100,000	99,990		
小計		92,265,600	92,757,696	
計		121,769,600	122,272,225	

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価償却累計額又は 償却累計額 (千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末 残高 (千円)
有形固定資産							
土地	105,619,197	—	—	105,619,197	—	—	105,619,197
建物	45,890,439	395,305	—	46,285,744	13,598,986	1,819,605	32,686,758
構築物	581,461,148	1,849,567	33,329	583,277,386	86,684,787	11,460,498	496,592,599
車両	35,488,931	3,061,304	—	38,550,235	18,128,707	2,636,714	20,421,527
機械装置	40,887,495	307,415	211,638	40,983,271	18,516,377	2,542,689	22,466,894
工具・器具・備品	1,929,633	333,447	417,675	1,845,405	1,429,830	121,932	415,575
建設仮勘定	2,233,723	1,525,824	2,410,552	1,348,995	—	—	1,348,995
有形固定資産計	813,510,567	7,472,865	3,073,195	817,910,237	138,358,688	18,581,439	679,551,548
無形固定資産							
借地権	17,857,858	—	—	17,857,858	—	—	17,857,858
施設利用権	34,915,985	—	—	34,915,985	8,405,991	1,188,965	26,509,993
電話加入権	2,314	—	—	2,314	—	—	2,314
商標権	2,299	48	—	2,347	1,603	115	744
ソフトウェア	453,754	778,943	—	1,232,697	394,997	98,959	837,700
無形固定資産計	53,232,212	778,992	—	54,011,204	8,802,592	1,288,040	45,208,612

(注) 当期増加額のうち主なものは、次のとおりです。

構築物 秋葉原駅改良工事 1,376,618 千円

南流山駅改良工事 350,312 //

車両 新造車両3編成 3,061,304 //

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分		当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率(%)	返済期限
短期借入金		—	—	—	—
1年以内に返済予定の長期借入金 (短期借入金)(注)1		8,214,050	11,621,000	無利子	—
1年以内に返済予定のリース債務		2,662	1,438	—	—
長期借入金(1年以内に返済予定 のものを除く。)(注)1、3		299,568,460	287,947,460	無利子	平成42年2月25日
リース債務(1年以内に返済予定 のものを除く。)		1,834	714	—	平成29年1月20日
その他の 有利子 負債	車両未払金	544,341	533,709	2.89	—
	車両長期未払金 (1年以内に返済予定のものを 除く。)(注)3	648,479	114,769	2.89	平成26年9月30日
	鉄道・運輸機構未払金	19,217,730	20,236,662	0.20	—
	鉄道・運輸機構長期未払金 (1年以内に返済予定のものを 除く。)(注)2、3	676,947,656	656,707,775	0.20	平成60年3月31日
合計		1,005,145,215	977,163,530	—	—

(注) 1 「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しています。

なお、リース債務については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を貸借対照表に計上しているため、「平均利率」を記載していません。

- 2 鉄道・運輸機構への貸付に対応する借入金については、「第2 事業の状況 5 経営上の重要な契約等 (2) つくばエクスプレス(常磐新線)の建設事業費に充当するための借入及び貸付」を参照。
- 3 鉄道・運輸機構長期未払金の利率は、「第2 事業の状況 5 経営上の重要な契約等 (3) 常磐新線の建設及び譲渡・引渡し基本協定に基づく譲渡若しくは引渡し条件等協定書」を参照。
- 4 長期借入金、車両割賦長期未払金、鉄道・運輸機構長期未払金(1年以内に返済予定のものを除く。)、リース債務の貸借対照表日後5年内における返済予定額は以下のとおりです。

区分	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	16,634,800	24,858,700	29,517,400	31,062,100
車両割賦長期未払金	114,769	—	—	—
鉄道・運輸機構 長期未払金	20,126,00	18,855,000	18,303,000	17,701,000
リース債務	354	196	143	20

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	191,100	—	—	15,603	175,496
賞与引当金	305,640	317,959	305,640	—	317,959
役員退職慰労引当金	49,378	18,183	24,469	—	43,093

(注) 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」は、債権回収による取崩額である。

【資産除去債務明細表】

当事業年度期首及び当事業年度末における資産除去債務の金額が当事業年度期首及び当事業年度末における負債及び純資産の合計金額の100分の1以下であるため、記載を省略しています。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

① 資産の部

イ 現金及び預金

区分	金額(千円)
現金	466,757
預金	
普通預金	3,758,288
計	3,758,288
合計	4,225,045

ロ 未収運賃

相手先	金額(千円)
(株) パスモ	1,569,834
三菱UFJニコス(株)	479,252
(株) ジェーシービー	172,999
東日本旅客鉄道(株)	14,058
その他	36,282
計	2,272,426

ハ 貯蔵品

区分	金額(千円)
車両用品	263,445
施設・電気用品	192,622
その他	13,209
計	469,277

ニ 長期貸付金

相手先	金額(千円)
鉄道・運輸機構	287,197,460
その他	708,000
合計	287,905,460

(注) 鉄道・運輸機構に対する長期貸付金の契約内容等については「第2 事業の状況 5 経営上の重要な契約等」を参照。

② 負債の部

イ 未払金

区分	金額(千円)
車両未払金	533,709
鉄道・運輸機構未払金	20,236,662
その他	2,726,679
計	23,497,050

ロ 預り連絡運賃

相手先	金額(千円)
東京都交通局	6,585
東京地下鉄(株)	4,514
東日本旅客鉄道(株)	2,984
東武鉄道(株)	2,817
関東鉄道(株)	2,203
その他	214
計	19,319

ハ 前受運賃

区分	金額(千円)
定期券	2,369,611
計	2,369,611

ニ 長期未払金

区分	金額(千円)
----	--------

車両長期未払金	114,769
鉄道・運輸機構長期未払金	656,707,775
計	656,822,545

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第 6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
株券の種類	1株券、10株券、100株券、1,000株券、10,000株券、ただし、100株券未満の株式につき、その株式数を表示した株券を発行できる。
剰余金の配当の基準日	3月31日
1単元の株式数	-----
株式の名義書換え	
取扱場所	本会社の本社において取扱う。
株主名簿管理人	設置しない。
取次所	設置しない。
名義書換手数料	無料
新券交付手数料	-----
単元未満株式の買取り	
取扱場所	-----
株主名簿管理人	-----
取次所	-----
買取手数料	-----
公告掲載方法	官報
株主に対する特典	なし
株式譲渡の制限	本会社の株式を譲渡又は取得するときは、定款第8条により、取締役会の承認を要する。

第 7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しています。

(1) 有価証券報告書 及びその添付書類	事業年度 (第22期)	自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日	平成24年6月28日 関東財務局長に提出。
(2) 半期報告書	事業年度 (第23期中)	自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日	平成24年12月27日 関東財務局長に提出。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書

平成25年6月21日

首都圏新都市鉄道株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 長 光 雄 ⑩

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 久 保 隆 ⑩

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている首都圏新都市鉄道株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの第23期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、首都圏新都市鉄道株式会社の平成25年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

※1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会社が別途保管しております。

2 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。